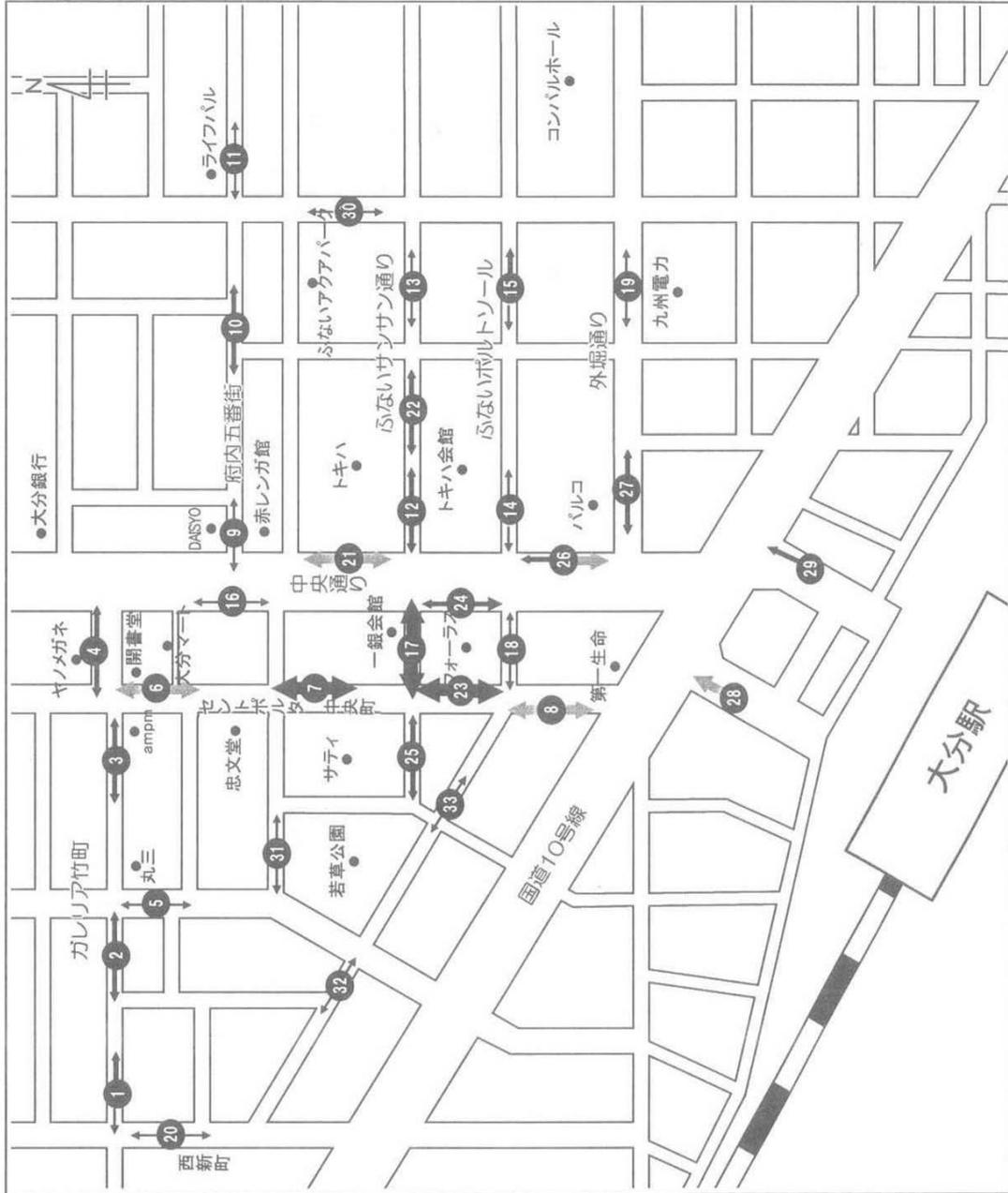


■地点別方向別1日平均通行量（平成18年）（33地点）



1 調査地点

ブロック名	地点 No.	地点名
	1	レストラン石合船前
①ガレリア竹町	2	正徳堂前
	3	いわお洋装店前
	4	リーガル靴店前
	5	丸三機
	6	かふえてらす開業堂機
②セントポルタ中央町	7	いづみや和菓器店前
	8	ウイング前
③府内五番街	9	パチンコDAISYO前
	10	若竹園前（旧たしむ呉服店前）
④ふふないサンサン通り	11	ライフバル前
	12	トキハ前
⑤ふふないポルトソール	13	西鉄旅行社前
	14	本田旅館前
⑥大和証券前	15	大分信用金庫府内町支店前
	16	大和証券前
⑦赤レンガ・中央通り	17	一銀会館前（フォーラス前）
	18	原屋本店面
⑧外堀通り	19	九州電力前
	20	コトブキヤ前
⑨西新町	21	中央通り側入口付近
	22	トキハ会館向かい側入口付近
⑩トキハ	23	中央通り側入口付近
	24	中央通り側入口付近
⑪フォーラス	25	正面入口付近（ベスト電器前）
	26	中央通り側入口
⑫サティ	27	外堀通り側入口
	28	バス停前
⑬バルコ	29	JTB前
	30	ふふないアクアパーク東側（田北学園前）
⑭大分駅前	31	若草公園北側
	32	ベスト電器駐車場前
⑮若草公園周辺	33	プリンゴヤ薬局本店面



出典：大分市中心部における通行量調査報告書（平成19年2月）

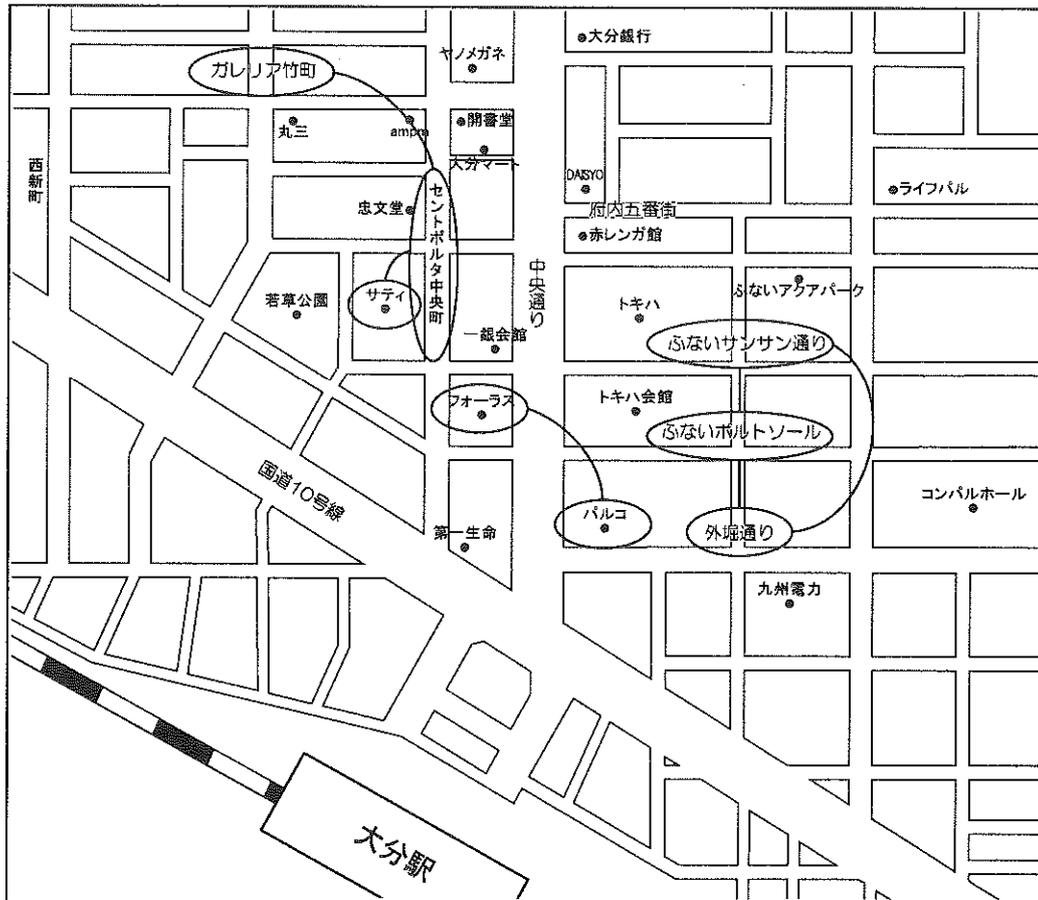
■商業集積間の相関関係（平成 18 年）

中心部買物地区間のφ係数行列

		ガレリア竹町	セントポルタ中央町	府内五番街	ふないポルトソール	サンサン通り	外堀通り	トキハ	フォーラス	サティ	パルコ	オアシスひろば21	その他
買物（予定） 場所別	ガレリア竹町	-	0.1618	-0.0263	0.0669	0.0324	0.0498	0.0806	-0.0357	0.0616	0.0044	0.0595	-0.0531
	セントポルタ中央町	0.1618	-	0.0227	0.0639	0.0292	0.0308	-0.0251	0.0448	0.1057	-0.0221	0.0310	-0.0251
	府内五番街	-0.0263	0.0227	-	0.0911	0.0718	0.0513	-0.0368	-0.0279	-0.0582	0.0179	0.0230	-0.0518
	ふないポルトソール	0.0669	0.0639	0.0911	-	0.2695	0.3587	0.0139	0.0728	0.0632	0.0683	0.2174	-0.0139
	サンサン通り	0.0324	0.0292	0.0718	0.2695	-	0.1499	-0.0010	0.0279	0.0405	0.0340	0.1096	-0.0254
	外堀通り	0.0498	0.0308	0.0513	0.3587	0.1499	-	-0.0089	0.0207	0.0302	0.0347	0.1525	-0.0192
	トキハ	0.0806	-0.0251	-0.0368	0.0139	-0.0010	-0.0089	-	-0.0568	0.0172	-0.0031	0.0349	-0.0677
	フォーラス	-0.0357	0.0448	-0.0279	0.0728	0.0279	0.0207	-0.0568	-	0.0428	0.3892	0.0411	-0.0386
	サティ	0.0616	0.1057	-0.0582	0.0632	0.0405	0.0302	0.0172	0.0428	-	0.0013	0.0548	-0.0334
	パルコ	0.0044	-0.0221	0.0179	0.0683	0.0340	0.0347	-0.0031	0.3892	0.0013	-	0.0230	-0.0280
	オアシスひろば21	0.0595	0.0310	0.0230	0.2174	0.1096	0.1525	0.0349	0.0411	0.0548	0.0230	-	-0.0250
	その他	-0.0531	-0.0251	-0.0518	-0.0139	-0.0254	-0.0192	-0.0677	-0.0386	-0.0334	-0.0280	-0.0250	-

※網掛けはマイナスの相関関係を表し、太枠はプラスの相関関係を表します。

中心部買物地区の相関関係



※-----はマイナスの相関関係を表し、——はプラスの相関関係を表します。

出典：大分市中心部における通行量調査報告書（平成 19 年 2 月）

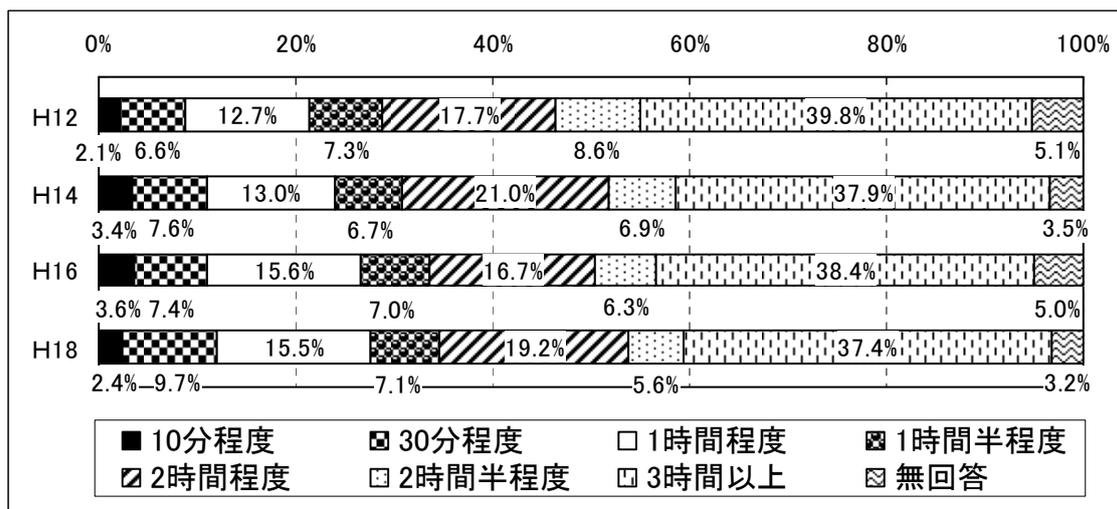
(2) まちなかの滞留時間

来街者の中心市街地内での滞留時間について見ると、2時間程度以下の短い時間帯の割合が増加しているのに対し、2時間半程度以上の長い時間帯の割合が減少しており、来街者が街なかに留まっている時間が減少している。

平成12年12月わさだタウン開業、平成14年4月パークプレイス開業以来、中心市街地において、まちなか滞在時間は減少している。

街なか滞留時間が短縮している要因としては、郊外の滞在型大型集客施設と比較すると、「大分市中心市街地活性化基本計画策定に係るアンケート調査」の結果（後記）より、中心市街地へ出掛ける頻度が大きく減少していること（アンケート調査では約6割が減少層）、自家用車での来街し長時間駐車すると費用がかさむため（過半が自家用車利用）、買い回る店舗数が少ないため（3店舗以下が7割以上）、滞留を促す緑や休憩場所、公衆トイレが不十分なため（中心市街地の不満の2番目が「潤いある緑、無料の休憩場所、清潔な公衆トイレなどが少なく、長時間滞在できない」であった）などが推察される。

■街なか滞留時間の推移



資料：各年 大分市中心部における通行量調査（アンケート調査）

10. その他中心市街地の状況

本市では、環境に優しい自転車利用を促進する各種の政策を展開しているが、中心市街地での自転車利用者には買物目的が多くを占めている。

その他、事業所数・従業者数はともに減少している。また、地価は下落しているが、下げ止まり感が出てきている。

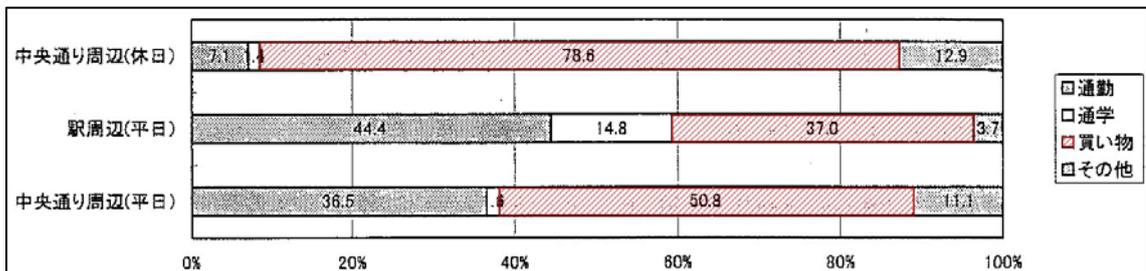
(1) 自転車利用

本市では環境に優しい自転車利用を促進する政策を展開しており、サイクリングロードやサイクルポート（レンタサイクル）、自転車駐車場の整備などを進めている。

中心市街地においては、大分駅北サイクルポート（レンタサイクル）や公園（若草公園、府内アクアパーク）の地下を利用した自転車駐車場などが整備されている。また、大分駅付近連続立体交差等に併せた中心市街地への自転車利用動線なども検討されている。

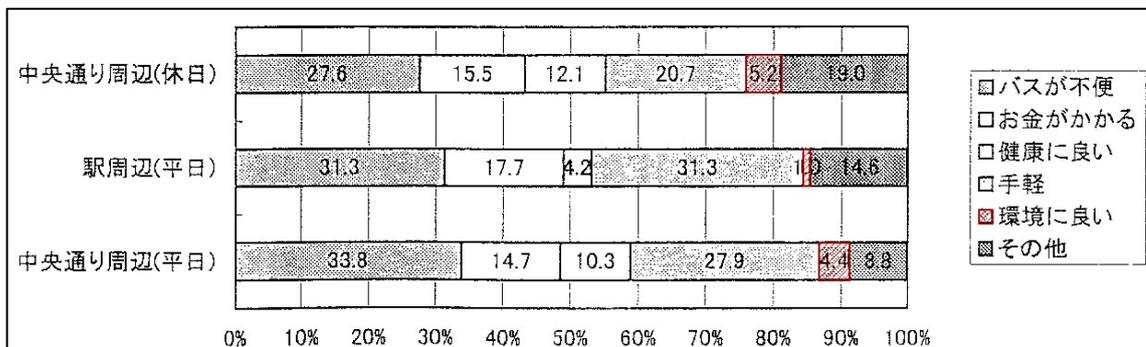
中心市街地の自転車等利用者について見ると、買物を目的とした利用者は、中央通り周辺の平日で約5割、休日で約8割となっている。また、自転車を利用する理由として「環境に良い」を挙げる利用者はまだ少なく、市民の環境意識の啓発が期待される。

■ 地区別利用目的の比率



出典：大分市中心部自転車等駐車場整備計画（平成14年3月）

■ 地区別平休日別バス等を利用しない理由の比率



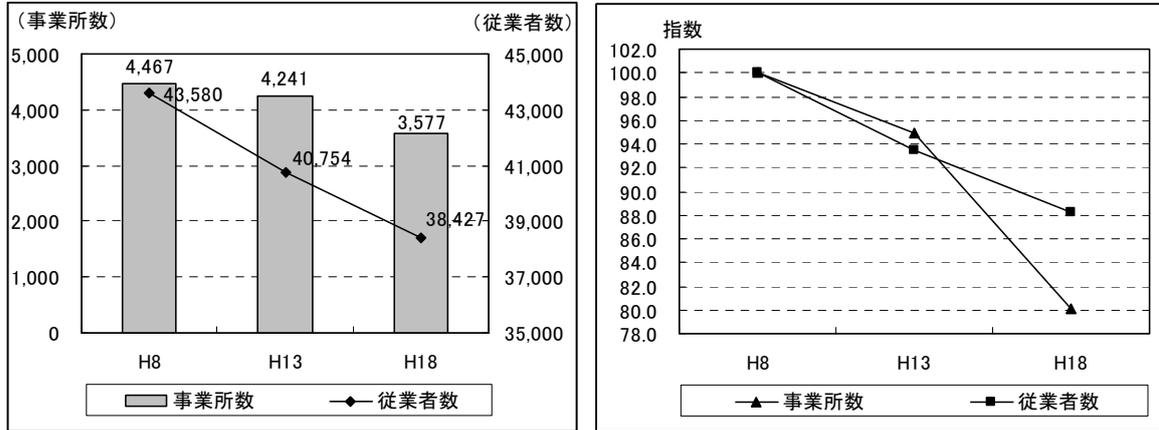
出典：大分市中心部自転車等駐車場整備計画（平成14年3月）

(2) 事業所数・従業者数

中心市街地^(*)の事業所数及び従業者数について見ると、いずれも減少しており、特に平成13年から18年にかけての事業所数の落ち込みが顕著となっている。

(*) 中心市街地を町丁目で近似し、町丁目単位のデータを集計している。

■ 中心市街地の事業所数・従業者数の推移



資料：各年事業所・企業統計調査

(3) 地価

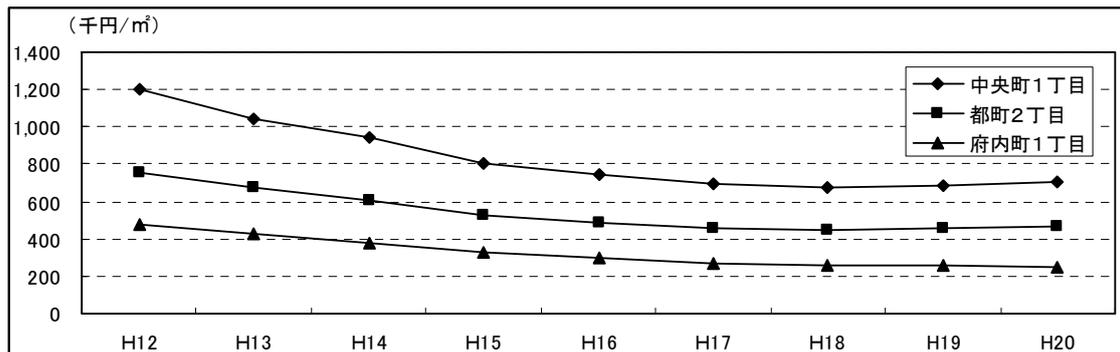
平成20年現在、中心市街地内の商業地における公示地価は251,000～704,000円/㎡となっている。

中心市街地の商業地の地価は下落を続けていたが、中心市街地の商業地3箇所のうち2箇所では平成18年を底として上昇に転じている。ただし、いずれの箇所も平成12年の5～6割の水準にある。

■ 中心市街地の公示地価の推移

単位:千円/㎡	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H20/H12
中央町1丁目	1,200	1,040	940	800	745	700	680	690	704	58.7%
都町2丁目	750	677	605	525	490	460	450	458	468	62.4%
府内町1丁目	480	430	375	328	300	273	260	255	251	52.3%

資料：各年国土交通省地価公示



11. 都市開発及び施設整備の状況

(参考：資料編 資料13)

JR 大分駅南側を中心として大規模な都市整備が展開されており、これら事業を活かした中心市街地活性化に取り組む必要がある。

大分駅周辺は、魅力ある都心を形成する重要なエリアであり、官民複合施設である複合文化交流施設や、駅舎の改築に伴う駅ビル等の都市機能の充実を図り、駅北側の商業集積と相乗効果を発揮させる中、相互の回遊性や新たな魅力の創出によるまちなかの滞留時間の増加など、にぎわいのある中心市街地の形成に取り組む必要がある。

現在、JR 大分駅南側を中心として大規模な都市整備が展開されており、大分駅南土地区画整理事業、大分駅付近連続立体交差事業、関連街路整備など大分駅周辺総合整備事業や複合文化交流施設整備事業などがすすめられている。

大分駅南土地区画整理事業により、駅南側の都市基盤が整うとともに、幅員 100m のシンボリックな都市軸が形成されることになる。また、駅南口から至近な位置に複合文化交流施設が整備され、公共機能と民間機能が複合した新たな集客の核が形成される。

大分駅付近連続立体交差事業により、鉄道南北市街地の連携が強化され、人の回遊促進や国道 10 号線の渋滞緩和が期待されている。また、連立事業に併せて JR 換地の高度な土地利用が予定されている。

複合文化交流施設の民間機能部分及び JR 換地などの土地利用については、中心市街地の魅力を向上する上で極めて重要であり、駅北側の商業集積と相乗効果を発揮し、相互の回遊性や新たな魅力の創出など、東九州の中核たるにふさわしい高次都市機能の集積を図るとともに、高質な都市環境、景観を形成することが望まれる。

■事業計画図（予定）



出典：大分市複合文化交流施設基本構想（平成 18 年度）

12. 旧基本計画の検証

(1) 旧基本計画の検証の視点

旧基本計画は、中心市街地の活性化を目的とした計画であることから、計画策定以前と比較して「中心市街地が活性化したか」ということを検証する。

検証対象としては、旧基本計画で位置付けられた事業や体制構築などの実行性、さらには、中心市街地活性化に対する認識や戦略などが適切であったかなどの、旧基本計画の妥当性が考えられる。

これらを踏まえ、想定される検証の4つの視点を以下に整理する。

① 活性化事業の実現度

- ・ 中心市街地活性化の取り組み事業として位置づけられた49事業の実現度。

② 課題の解消度

- ・ 中心市街地の問題点を受けて設定された4つの課題（50万都市に相応しい中心市街地の魅力の創出、中心市街地へのアクセスの改善、中心市街地における定住人口の回復、中心市街地における従業人口の回復）の解消度。

③ 推進体制の組織化と取り組み内容

- ・ 中心市街地活性化に向けた各種事業等を円滑かつ効率的に推進するための体制として位置づけられた組織（庁内調整会議、推進窓口、TMO）の組織化の状況と取り組み内容。

④ 活性化シナリオの妥当性

- ・ 中心市街地活性化のシナリオとして設定された、中心市街地衰退の原因認識、中心市街地活性化の課題、まちづくりの基本的な方針、活性化事業の実施という一連のプロセスを踏まえた活性化シナリオの妥当性。

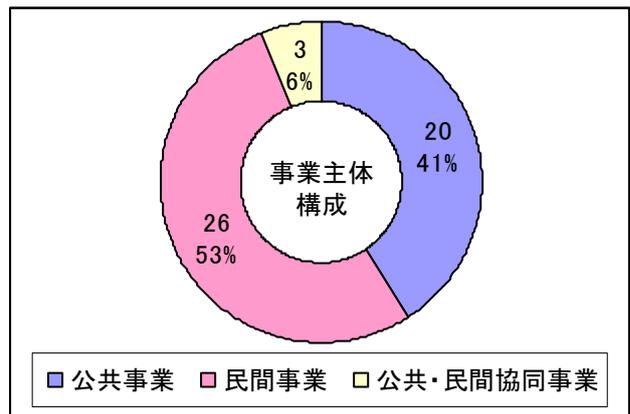
(2) 旧基本計画に位置付けられた事業の実現度

旧基本計画において、中心市街地活性化の取り組みとして位置づけられた 49 事業について、その実現度を整理する。

計画事業件数の過半が民間事業にかかわらず、実施事業のほとんどは公共事業（件数ベースで 66%、事業費ベースで 99%）であり、民間事業の進捗が捗々しくない。

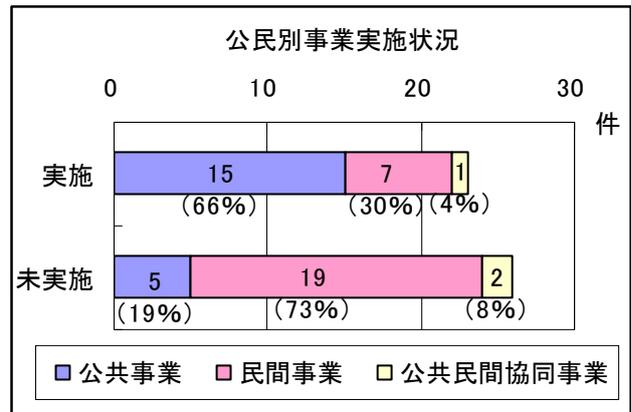
①計画事業件数

旧基本計画に位置付けられた 49 事業の事業主体構成について見ると（右上図）、民間事業が 26 件（53%）と最も多く、公共事業が 20 件（41%）、公民協同事業が 3 件（6%）となっている。



②事業実施状況

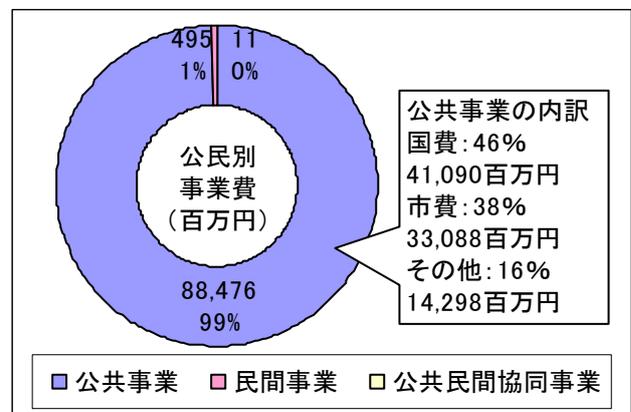
事業の実施状況について見ると（右中図）、実施事業は 23 件（47%）と全事業（49 件）の半数以下となっている。



実施事業の 66%（15 件）を公共事業が占めているのに対し、未実施事業の 73%（19 件）を民間事業が占めており、民間事業の進捗が捗々しくない状況となっている。

③実施事業の事業費

実施した事業の事業費について見ると（右下図）、総投入事業費約 900 億円の内、そのほとんど（99%）に当たる約 885 億円が公共事業となっている。



そのうち、公共事業の内訳を見ると、国費が 46%（約 411 億円）、市費が 37%（約 331 億円）を占めている。

公共事業の内訳
 国費: 46%
 41,090百万円
 市費: 38%
 33,088百万円
 その他: 16%
 14,298百万円

(3) 課題毎の事業効果の検証

① 「課題 1：50 万都市に相応しい中心市街地の魅力の創出」の達成度と事業効果

公共事業を中心に活性化事業に取り組んでおり、文化・情報などの高次都市機能の集積に関しては満足度が高いものの、商業機能についての満足度が低く、重要度については、平均的ではあるが期待されていることがうかがえる。

中心市街地の歩行者通行量は減少しており、課題解消に至っていない。

民間事業の進捗率の低さを勘案すると、中心市街地の魅力創出には、公共事業と併せて民間の取り組みが重要であり、特に商業振興が重要であると考えられる。

課題 1 に対応した事業の進捗（達成）状況について見ると、33 事業の内、実施された事業は 13 事業であり、達成率は約 39%である。

事業主体の内訳を見ると、公共事業は計画が 10 事業で実施が 5 事業（50%）、民間事業は計画が 20 事業で実施が 7 事業（35%）、公共民間協働が 3 事業で実施が 1 事業（33%）となっており、民間関連事業の達成（進捗）率が低い状況となっている。

■課題 1 に対応した事業の進捗（達成）状況

		旧基本計画 の事業数 (H22 目標)	実施した 事業数 (H17 現在)	進捗率 (H17 現在)
「郊外部との差別化をめざした多様な魅力の充実と創出」のために行う事業		18	5	27.8%
	公	3	0	0.0%
	民	13	4	30.8%
	公・民	2	1	50.0%
「多様な魅力との出会いを誘導する回遊性の確保」のために行う事業		9	4	44.4%
	公	2	1	50.0%
	民	6	3	50.0%
	公・民	1	0	0.0%
「回遊そのものが楽しくなる空間の創出」のために行う事業		6	4	66.7%
	公	5	4	80.0%
	民	1	0	0.0%
	公・民	0	0	—
小計		33	13	39.4%
	公	10	5	50.0%
	民	20	7	35.0%
	公・民	3	1	33.3%

課題 1 の事業効果を検証する材料として、「大分市民満足度調査（H17 年度）」及び「中心部歩行者通行量」を設定する。

（参考：資料編 資料 14）

「大分市民満足度調査」では、施策項目毎の重要度、満足度、及び特に力を入れて取り組んでもらいたい施策について調査している。

選択肢として挙げられている 56 施策のうち、課題 1 に対応する施策として「個性豊かな文化の創造と発信」、「魅力と活力を創出する都心機能の集積」、「小売商業」の 3 施策に着目すると、「個性豊かな文化の創造と発信」及び「魅力と活力を創出する都心機能の集積」については、重要度の認識が低く、満足度が高いのに対し、「小売商業」については満足度が低く、重要度については、平均的ではあるが期待されていることがうかがえる。

また、「特に力を入れて取り組んでもらいたい施策」の選択肢として挙げられている 24 施策のうち、課題 1 に対応する施策として「小売商業など流通業の振興」、「個性豊かな文化の創造と発信」、「新たな創造、創出に向けた都市機能の高質化」、「サービス業の振興」、「情報化など高次な都市機能の充実」、「近未来を先取りする高次都市機能の集積」の 6 施策に着目すると、いずれも下位となっている。

これらのことから、50 万都市に相応しい中心市街地の魅力として、文化や情報などの高次都市機能の集積が図られたかについては、これまでのインフラ投資などから、市民の満足度が高く、これからの重要度はそれほど高くない状況がうかがえるが、道路、交通体系の確立や計画的な市街地整備など、都市機能に関連する施策も比較的数量多く要望が上げられている。市民意識として、高次な都市機能の充実・高次都市機能の集積などは、一定の効果があったものと判断したことが推測される。

一方、商業やサービス業の振興については、満足度が低く、重要度は、平均的に期待されているが、都市機能の増進と経済活力の向上の一体的推進が図られてはいない状況が、市民意識からも推測される。

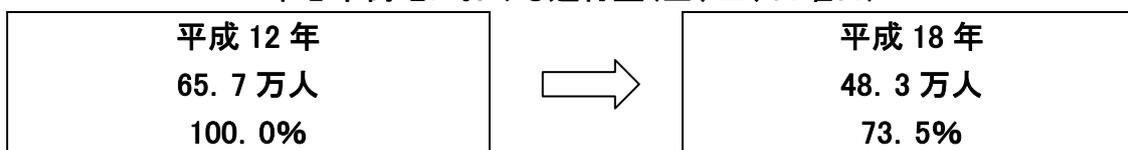
「中心部歩行者通行量」では、中心部の金、土、日曜日の歩行者交通量を調査している。

平成 12 年の 65.7 万人から平成 18 年で 48.3 万人と約 17.4 万人減少しており、特に、週末の土・日曜日の歩行者通行量が大きく落ち込み、買物客の減少が推察されることから、本指標においては、中心市街地の魅力の創出は実現されていないと考えられる。また、旧基本計画策定以前の「大分市中心部における通行量調査」データ^(*)をサンプル(平成 4, 6, 8, 10, 12 年の 5 ポイント)とし、将来の通行量をトレンド法(関数式のあてはめ)により推計したところ、実際には推計以上に通行量が減少しているという結果となった。

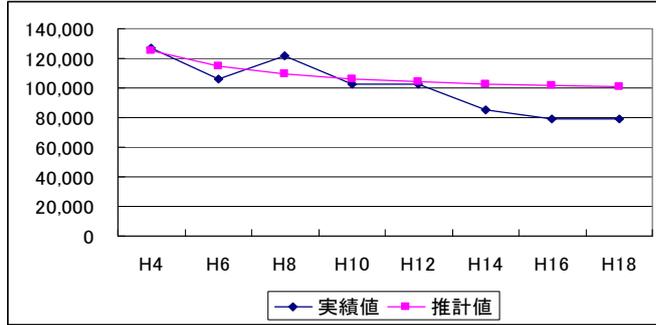
結果として、課題 1 に関して、1,245,984 千円を投資してきたが、通行量については求められる成果が得られていない状況にある。

(*) 平成 10 年以前調査と、12 年以後の調査で調査ポイントが異なるため、双方で共通するポイントを抽出してその合計を比較した。抽出したポイントは以下の通り。
1B, 2A, 3A, 3B, 4A, 6A, 6B, 7A, 7B, 8A, 9B, 10A, 10B, 11A, 11B, 13A, 13B, 14A, 14B, 15B, 17A, 18A, 19B, 21A, 21B, 23B, 24B の計 27 ポイント

中心市街地における通行量(金、土、日曜日)



■通行量の推計と実績の比較 (資料：各年大分市中心部における通行量調査)



資料：各年・大分市中心部における通行量調査



推計に用いた調査ポイント

【参考：課題1に対応した個別事業の実施状況等】

	事業名	公・民	主体	実施	実施事業費 (千円)
「郊外部との差別化をめざした多様な魅力の充実と創出」のために行う事業	府内城再発見事業	公	市	×	0
	優しい商店街づくり事業	民	民	×	0
	商店街空き店舗対策事業	民	民	×	0
	共同店舗化事業	民	民	×	0
	表参道整備事業	民	民	×	0
	託児所等の設置事業	民	民	×	0
	複合拠点施設整備事業	民	民	×	0
	商店街活性化事業	民	民	○	16,106
	広域カード等推進事業	民	民	×	0
	商店街空き店舗活用事業	民	民	○	96,983
	大分名物新魅力創出事業	公・民	市・民	○	10,790
	TMO結成支援促進事業	公・民	市・民	×	0
	個店レベルでの魅力サービスの向上	民	民	×	0
	既存イベントの充実と魅力あるイベントの創出	民	民	○	10,041
	環境保全活動と連携した商店街づくりの推進	民	民	×	0
	複合文化交流施設整備事業	公	市	×	0
	エコ・エコプラザ設置事業	民	民	○	347,886
総合社会福祉保健センター建設事業	公	市	×	0	
小計				481,806	
「多様な魅力との出会いを誘導する回遊性の確保」のために行う事業	大分駅周辺地区まちづくり総合支援事業	公	市	○	7,500
	タウンモビリティ整備事業	民	民	×	0
	駐車場有効利用促進事業	民	民	○	3,302
	駐車場確保及びその利用システムの整備	民	民	○	13,986
	磯崎建築案内サイン整備事業	民	民	○	6,676
	総合観光案内所整備事業	民	民	×	0
	レンタサイクル整備事業	公・民	市・民	×	0
	観光案内版・標識整備事業	公	市	×	0
	歴史を活かしたまちづくり構想の推進	民	民	×	0
小計				31,464	
「回遊そのものが楽しくなる空間の創出」のために行う事業	広場公園整備事業	公	市	×	0
	緑化重点地区整備事業	公	市	○	1,594
	中央町地区コミュニティゾーン形成事業	公	市	○	199,000
	電線類地中化事業	公	市	○	500,000
	橋梁架け替え事業	公	市	○	32,120
	商店街基盤整備事業	民	民	×	0
	小計				732,714
合計				1,245,984	

②「課題2：中心市街地へのアクセスの改善」の達成度と事業効果

課題に対応した全ての事業が実施されているにも係わらず、中心市街地への交通利便性の満足度が低く、課題の解消には至っていない。

現在大分駅周辺総合整備事業が進捗中であること、中心市街地へのアクセス改善の満足度として駐車場整備の要因が大きいことを勘案すると、課題に即対応した事業設定ではなく、長期の事業設定であった。

課題2に対応した事業の進捗（達成）状況について見ると、旧基本計画に位置付けられた6事業の全てが実施されており、その全てが公共事業である。

■課題2に対応した事業の進捗（達成）状況

		旧基本計画 の事業数 (H22 目標)	実施した 事業数 (H17 現在)	進捗率 (H17 現在)
「中心市街地と周辺を結ぶ道路網の整備」 のために行う事業		2	2	100.0%
	公	2	2	100.0%
	民	0	0	—
	公・民	0	0	—
「中心市街地における道路交通網の改善」 のために行う事業		4	4	100.0%
	公	4	4	100.0%
	民	0	0	—
	公・民	0	0	—
小計		6	6	100.0%
	公	6	6	100.0%
	民	0	0	—
	公・民	0	0	—

課題2の事業効果を検証する材料として、「大分市中心市街地商店街と郊外大規模商業施設に関する買い物動向調査（H17年3月）」における「交通の利便性」に関する設問を設定する。

同調査は、大分市中心市街地商店街（4箇所）、百貨店（1店）、郊外大規模商業施設（2店）を対象に、消費者の利用状況や満足度を調べたものである。

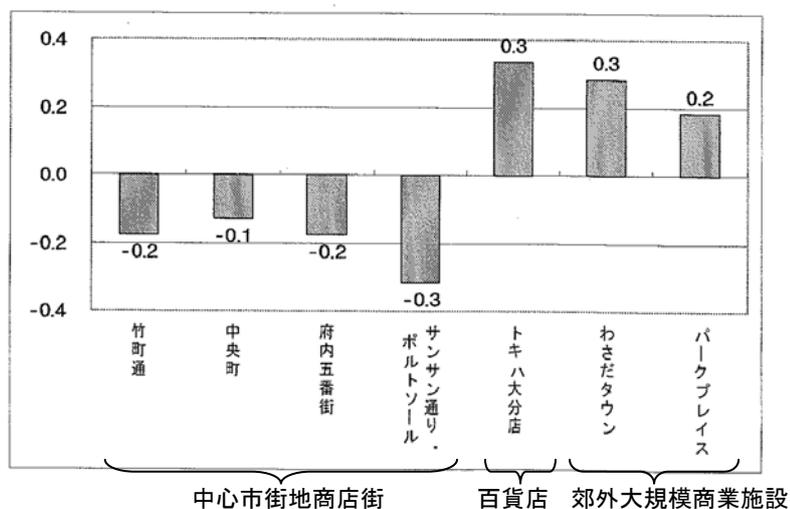
調査の設問の一つとして「交通の利便性」について聞いており、中心市街地商店街の満足度が低い一方、中心市街地で大規模立体駐車場を備える百貨店、及び郊外大規模商業施設の満足度が高かった。

これらのことから、中心市街地へのアクセス改善という課題は解消しておらず、その解消にはアクセス道路の整備だけでなく、目的地である商店街や商業施設の駐車場整備が必要であることがうかがえる。

設定した事業が全て実施されているにもかかわらず課題が解消していないことを考えると、課題解消を主たる目的とした事業設定であったとは必ずしもいえないといえよう。

■交通の利便性の満足度比較

(出典：大分市中心市街地商店街と郊外大規模商業施設に関する買い物動向調査 /H17年3月)



【参考：課題2に対応した個別事業の実施状況等】

	事業名	公・民	主体	実施	実施事業費 (千円)
「中心市街地と周辺を結ぶ道路網の整備」のために行う事業	都市計画道路事業(高)庄の原佐野線	公	県	○	15,907,000
	一般国道10号線古国府拡幅事業	公	国	○	6,404,882
	小計				22,311,882
中心市街地における道路交通網の改善のために行う事業	大分駅付近連続立体交差事業	公	県	○	17,848,398
	連続立体交差関連側道事業	公	県・市	○	3,841,959
	大分駅南土地区画整理事業	公	市	○	31,137,443
	大分駅周辺総合整備関連街路事業	公	市	○	10,849,000
	小計				63,676,800
合計					85,988,682

③「課題3：中心市街地における定住人口の回復」の達成度と事業効果

中心市街地の人口は増加しており、課題解消の効果が見られる。

ただし、課題に対応した事業の進捗率が低く、民間事業はまったく実施されていないにもかかわらず、中心市街地人口が増加している状況を見ると、事業実施の効果というよりも、地価下落を背景とした都心立地マンションの供給増加や都心回帰現象といった大きな社会経済環境の変化の影響が大きいものと考えられる。

課題解消に対応した事業費として17億円以上投資しており、これは中心市街地人口を一人増やすために約720万円要していることになる。

課題3に対応した事業の進捗状況について見ると、9事業の内、実施された事業は3事業であり、進捗率は33%である。

事業主体の内訳を見ると、公共事業は計画が3事業で実施が3事業（100%）、民間事業は計画が6事業で実施が0事業（0%）となっており、民間関連事業の進捗率が低い状況となっている。

■課題3に対応した事業の進捗（達成）状況

	旧基本計画 の事業数 (H22 目標)	実施した 事業数 (H17 現在)	進捗率 (H17 現在)
「定住人口の増加」のために行う事業	4	2	50.0%
公	2	2	100.0%
民	2	0	0.0%
公・民	0	0	—
「定住したいと思う魅力づくり」のために行う事業	5	1	20.0%
公	1	1	100.0%
民	4	0	0.0%
公・民	0	0	—
小計	9	3	33.3%
公	3	3	100.0%
民	6	0	0.0%
公・民	0	0	—

課題3の事業効果を検証する材料として、「中心市街地人口」を設定する。

中心市街地人口は、平成12年から平成18年の6年間で約2%増加しており、定住人口の回復は一定程度実現されている。

平成12年から15年にかけては減少傾向にあったが、平成15年以降、増加傾向に転じ、平成17年から18年にかけては再度、減少している。

中心市街地の人口を6年間で242人増やすのに、1,740,252千円投資した。これは、中心市街地の人口1人増やすのに、約7,200千円投資したこととなる。

中心市街地人口

平成 12 年 12,462 人 100. 0%	→	平成 18 年 12,704 人 101. 9%
--------------------------------	---	--------------------------------

【参考：課題 3 に対応した個別事業の実施状況等】

	事業名	公・民	主体	実施	実施事業費 (千円)
定住人口 の増加の ために行 う事業	大分市特定優良賃貸住宅供給促進事業	公	市	○	52,721
	高齢者向け優良賃貸住宅制度	民	民	×	0
	恵比寿をシンボルとしたまちづくりの推進	民	民	×	0
	従前居住者用賃貸住宅建設事業	公	市	○	1,157,335
	小計				1,210,056
定住した いと思う 魅力づく りのため に行う事 業	末広地区まちづくり事業	民	民	×	0
	ライフサポートシステムのある街づくりの推進	民	民	×	0
	金池保育所建て替え事業	公	市	○	530,196
	コミュニティタウンの推進	民	民	×	0
	我がまち意識の熟成を通した「人づくり」の推進	民	民	×	0
	小計				530,196
合計				1,740,252	

④「課題 4：中心市街地における従業者人口の回復」の解消度と事業効果

課題に対応した事業は実施されているものの、中心市街地の従業者人口は減少しており、課題は解消していない。

課題解消を一つの事業で対応できるとは考え難く、この事業も大分駅南土地区画整理事業が進捗中であるため、課題解消に即対応した事業であったかなど課題もあり、事業効果を生じさせるまでには至っていない。

課題 4 に対応した事業として 1 件の事業（公共事業）が位置づけられており、実施されている。

■課題 4 に対応した事業の進捗状況

	旧基本計画 の事業数 (H22 目標)	実施した 事業数 (H17 現在)	進捗率 (H17 現在)
「新たな職場の創出を支援する環境づくり」のために行う事業	1	1	100.0%
	公	1	100.0%
	民	0	—
	公・民	0	—